

地方における省エネ行動促進のために ～普及啓発実践者のための 研究交流集会の開催

岡崎朱実^{1),2)},高橋ゆみ子²⁾,小林ユミ²⁾

1)北海道大学高等教育推進機構
科学技術コミュニケーション教育研究部門研修科
VFF14537@nifty.com

2)特定非営利活動法人北海道グリーンファンド

背景と問題意識

1. 家庭部門の省エネルギー・温暖化防止行動を促す**普及啓発の必要性**は誰もが認めるところ
2. ライフスタイルや価値観が多様化する中, 決定打は一つではなく, 多様なアプローチや発想の転換が必要となっていており, **個々の取組みだけでは不十分**
3. 省エネルギー行動や環境配慮行動の促進に関する研究成果や実証事例が交流・議論・共有される**BECC JAPANは非常に意義のある機会**
4. **地方からの参加は, 費用と時間という両方の面から容易なことではない**

加えて

6. 普及啓発の役割を担うのは、多くの場合、地方自治体

7. 地方自治体には、職員の少なさや、職員の異動と
いう課題がある

道内の人口1万人以下の自治体 121/179



そこで

★地方でも

★もう少し気軽に

★地域の实情にあった実践例や情報を交流・共有
する機会を持つことで

省エネルギー・温暖化防止行動の促進に寄与できるの
ではないか？

地方における省エネ行動促進のために～普及啓発実践者のための 研究交流集会の開催(岡崎朱実)

3

省エネルギー行動研究北海道交流集会

第1回

第2回



2016年11月7日



2017年2月14日

* いずれも、NPO法人北海道グリーンファンド主催で、
独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金助成事業として実施

地方における省エネ行動促進のために～普及啓発実践者のための 研究交流集会の開催(岡崎朱実)

4

NPO法人北海道グリーンファンド

【設立の目的】

環境負荷の少ない、持続可能なエネルギー未来を目指して、市民や地域が主体となった省エネルギー活動の推進と、再生可能な自然エネルギーの普及、促進、及びそのために必要な社会的制度、政策の提言と実現をもって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。



地方における省エネ行動促進のために～普及啓発実践者のための 研究交流集会の開催(岡崎朱実)

5

省エネルギー行動研究北海道交流集会

◎集会の設計ポイント

【内容】

- 省エネ行動に関する知見
- 事例紹介
- 参加者も交えた情報共有

【スタイル等】

- 自治体を含む多様なステークホルダーの参加
- なるべくリラックスした雰囲気

地方における省エネ行動促進のために～普及啓発実践者のための 研究交流集会の開催(岡崎朱実)

6

第1回省エネルギー行動研究北海道交流集会

副題: どう押す? 省エネ行動スイッチ
どうはかる? 省エネ効果

日時: 2016年11月7日(月) 12:50~17:10

会場: 札幌市環境プラザ環境研修室



参加: 自治体 4(6名)
事業者 5(8名)
市民団体 3(7名)
実践者 (1名)
中間支援組織 2(3名)
研究者(2名)

地方における省エネ行動促進のために~普及啓発実践者のための 研究交流集会の開催(岡崎朱実)

7

第1回省エネルギー行動研究北海道交流集会

副題 どう押す? 省エネ行動スイッチ
どうはかる? 省エネ効果

講演 「省エネルギー行動の促進について」
講師: 鶴崎敬大さん((株)住環境計画研究所)

事例紹介

1. 家庭の省エネ応援プロジェクト「うちのEne-Ecoプロジェクト」について
森田裕子さん(旭川NPOサポートセンター)
2. 「快適性」と「省エネ性」の両立を目指して~
北ガス版省エネサポートシステム実証事業~
若狭純一さん(北海道ガス株式会社)

コメンテーター 大沼進さん(北海道大学)

地方における省エネ行動促進のために~普及啓発実践者のための 研究交流集会の開催(岡崎朱実)

8

第1回省エネルギー行動研究北海道交流集会

◎多様な参加者があったことによる成果

- 各主体が考えている悩みや事例を発言できるスタイルの交流会は良いと思った(自治体)
- 「関心のない人にどう伝えていくか」は、市としてもずっと悩んでいたところですが、皆、同じ気持ちを持っていることを知って、ちょっと安心しました(自治体)
- 出席者も、研究、NPO、メーカーと多様で、それぞれの目線での考え、意見を聞く事ができ、参考になった(事業者)
- 省エネを実践されている方々が感じられている課題を知る事ができ、研究・実践報告を行っていく上で、大変参考になりました(研究者)

地方における省エネ行動促進のために～普及啓発実践者のための 研究交流集会の開催(岡崎朱実)

9

第1回省エネルギー行動研究北海道交流集会

◎講演・発表内容による成果

- 経済的インセンティブから楽しむインセンティブに変化していく過程は、興味がありました。他人との比較や、ランキングなどのゲーム性を持たせることが、取組み継続の動機となるのかと感じました。ネット社会となっても、やはり、グループインタビューのような対面での「ロコミ」が重要であると感じました。(自治体)
- 行動変容促進に関する内容が普及広報活動の参考になりました。(事業者)
- 道内の省エネに関する活動事例を知る事ができ、今後の方向性、問題点等を整理することが出来た。(事業者)

地方における省エネ行動促進のために～普及啓発実践者のための 研究交流集会の開催(岡崎朱実)

10

第2回省エネルギー行動研究北海道交流集会

副題: 冷蔵庫を切り口にCOOL CHOICEを
進めるための仕組みやしかけを考える

日時: 2017年2月14日(火) 13:00~16:00

会場: 札幌駅前ビジネススペース



参加: 自治体 8(12名)
事業者 1(1名)
市民団体 5(11名)

地方における省エネ行動促進のために～普及啓発実践者のための 研究交流集会の開催(岡崎朱実)

11

第2回省エネルギー行動研究北海道交流集会

副題: 冷蔵庫を切り口にCOOL CHOICEを
進めるための仕組みやしかけを考える

事例 紹介

1. 省エネ型冷蔵庫買替キャンペーン結果報告
野村 和央さん(札幌市)
2. 「電気代そのまま払い」について
高瀬香絵さん((独法)科学技術振興機構
低炭素社会戦略センター)
3. 「まちで一番古い冷蔵庫コンテスト」について
藤川まゆみさん(NPO法人上田市民エネルギー)

地方における省エネ行動促進のために～普及啓発実践者のための 研究交流集会の開催(岡崎朱実)

12

第2回省エネルギー行動研究北海道交流集会

◎自治体・研究者・NPOによる多面的な報告の成果

- 他市の状況が直接的に伝わり, とても参考になりました. また, NPO団体の自由な発想が良かったです. (自治体)
- 研究者やイベント実施者の生の声を聞くことができ大変勉強になりました. またこのような会を設けていただければありがたいです. (自治体)
- テーマとなった取り組みについて, 色々な視点から考察ができ有意義であった. スカイプによる参加も新しい取組で今後もあれば良いと思う. (自治体)
- 冷蔵庫だけでもこれだけの気付きがあるとは, 期待以上です. (自治体)

地方における省エネ行動促進のために～普及啓発実践者のための 研究交流集会の開催(岡崎朱実)

13

第2回省エネルギー行動研究北海道交流集会

◎自分の自治体に引きつけて考えている

- 買い替えキャンペーン後のアフターケア, たとえば掴みとしての経済インセンティブの後にどうするのか, その他の市民にどうPRしていくかが大事と感じた. (自治体)
- 上田市事例を聞き, 事業連携を各種団体と一緒にやっていく方策を考えていきたい. (自治体)
- 自動車数が地域的に多く, エコドライブが主な啓発イベントが多くなっている. 家庭部門への啓発が行えていないが, うまく伝えられないし, 興味がないように感じる. その中で, やはり, 主婦層を中心に, 啓発を感じていたので, 今回の冷蔵庫を切り口にこれから当市でもできる事を探すきっかけとなった. (自治体)

地方における省エネ行動促進のために～普及啓発実践者のための 研究交流集会の開催(岡崎朱実)

14

第2回省エネルギー行動研究北海道交流集会

◎自分の自治体に引きつけて考えている

- これまで「冷蔵庫の買い替え」をPRするときに、その動機や一般的な使用年数についてのデータを情報提供することがなかった(考えたことがなかった)が、せっかくこんなデータがあるなら、**啓発リーフレットにでも載せようか**と思いました！(自治体)
- 冷蔵庫の買い替えは確かに大きな省エネ(CO2削減)効果があるのはわかるが、買い替えたら他の取組はどうでもよいと思われては意味がない！**買い替えをきっかけに、他の取組への意義も高めてもらえるようなさらなる工夫をしていく必要があるな**～と思いました。(自治体)

第2回省エネルギー行動研究北海道交流集会

◎実践者も自分ごととして考えられた

- お話を聞いてやはり冷蔵庫は**“買い替え”**しなければと、**実感**しました。(今使っているのは約20年前のもの)ただそのためには夫を説得せねばいけないという大きな壁!壊れるまで使うという方針をもっている。(市民団体)
- 省エネの話をする時に冷蔵庫の**買い替えの話**をしていこうと思いました。(市民団体)
- 実家の冷蔵庫が26年くらい前のもの。今回の**たくさんの資料を見せて、買い替えに再チャレンジ**したいと思います。
- 身近な冷蔵庫に関する取組事例だったので、大変興味深く参加できました。**データを継続して取り、広く伝えることで、一層効果が表れるのか**と感じました。(市民団体)

参加者へのヒアリングを通して

2017年7月21日(第2回参加自治体にヒアリング実施)

→多様なステークホルダーの参加には意義がある。

•一番、刺激を受けたのは、**こういうこと考えているのって、行政だけではないんだなあ**ということが、やっぱり刺激だった。行政以外の方の多さが、自分にとっては、意外だった。

•チョコ配ったのは、ちゃんと覚えていますね。**ゆるやかで、こっちの方が良いなあ**と思います。単純に質疑というもの、道とか国がやる時は、気軽に手を上げるイメージではないですね。そういうの感じました。そっちが気軽ではないというよりも、こっちが**気軽に感じられる**ということです。それは大きな違い。というかりピートしやすいですよ。

参加者へのヒアリングを通して

2017年7月21日(第2回参加自治体ヒアリング):続き

•「全然、しゃべりたくない」というのではないですよ。「がつつり議論するように」、という、そこまで考えていないでしょ、という、むしろ、**そこまで考えられないから行っているという状況が多い**というか。自分がやっていないから、**まだ、見ない世界**ですよ。だから、あれなんじゃないですか。やっぱりね、同じ土俵に乗れない人もたくさんいる。我々のように、たぶん、**市民の方達は、乗れない人たちだ**と思うんですよ。

→今後は、普及啓発実践者の多様性を考慮に入れた
集会設計が重要

今後の課題

3回目, 4回目をどう設計するか？

- 共通する題材で, 多様な視点の事例がよさそう
- 多様なステークホルダーの参加は必須

成果をどう測るか？何を指標にするのか？

- 普及啓発の成果指標の設定、評価の難しさは共通していると感じた。(第1回 自治体)

備考



- 第1回と第2回の省エネルギー行動研究北海道交流集会の概要を掲載した報告書を作成し、道内自治体に送付。